

環状線

LOOP LINE



生野

Ikuno



水の事故から命を守るには

7月9日、田島小学校の5・6年生に着衣泳の指導を行った。夏休みになると海や川などに出かける機会が増えます。危険なことは避ける等、事前の準備は当然ですが、事故にまきこまれた時の、対応策も必要です。水難事故は、約8割の人が服を着たままの状態です事故に遭っています。まず、服を着たまま水の中にはいると、水の抵抗が大きく、体力が奪われ長い距離は泳げなくなり、歩くこともままならなくなることを体験してもらい、そしていわゆる「浮いて

待て」仰向けになって浮いて助けを待つ「背浮き」を指導しました。状況によっては、泳いで岸を目指すより、体力を温存して背浮きで救助を待つ方が助かる可能性は高くなります。また、身近にあるペットボトルやビニール袋・リュックサック等を使うとほとんどの児童が長い時間浮くことが出来ました。万一、水難事故に遭った時には今日の講習を思い出し冷静に行動ができますように。(田中)

